



ひょうごスマートシティ・チャレンジ 『“トカイナカ”KAKOGAWA』 実現に貢献する スマート農業導入プロジェクト報告書

参加事業者 ソフトバンク 株式会社

支援機関 株式会社 村田製作所

×

加古川市政策企画課

背景・目的

農業者が長年培ってきた「ノウハウ」や、まちの土壌や気候、水質などの特性をデータ化・分析し、加古川市の農業のポテンシャルを引き出したい。



実証実験の概要

農業情報プラットフォーム（クラウドサービス）

農業者圃場にて
IoTセンサーデバイスにより
環境データを取得



栽培マニュアル

取得した環境データ



作業適期（防除・灌水）等の
栽培アドバイスを生産者に提供
データを活用した栽培の検証

潜在する農業のポテンシャル
具体的にはその地域に適した
新たな特産品の創出を検証

生産者様6軒（イチゴ4軒、小麦2軒）が参加

実証実験の様子

IoTセンサーデバイス (e-kaksahi)

イチゴ



小麦



土壌温度・体積含水率・ECセンサー (村田製作所製)



アプリケーション



計測データ表示

栽培アドバイス

実証実験の様子



◀ 12月25日
機器設置・アプリケーションレクチャーの様子

▼ 3月1日アフターフォロー②
生産者様向け最終報告会、分析レポートの様子



目標・KPI

- KPI① 農業生産者がデータによる農業の手ごたえを感じる。
- KPI② ソフトバンク、村田製作所の
プロダクトが使われるか、価値があるのか、検証できている。
- KPI③ 市の農業のポテンシャルが発掘される。



目標・KPI

- ポテンシャル① データ活用勉強会等によって、現在就農している若手生産者のさらなる生産性向上が見込める
- ポテンシャル② データを活用した栽培技術の体系化によって、施設園芸だけでなく露地栽培の生産性向上および新規就農者支援ができる
- ポテンシャル③ 豊富な日射量、消費地が近い・直売等が可能であるメリットを活かした園芸作物（イチゴ・トマト等）で「儲かる農業」の実現
- ポテンシャル④ 既存ブランドである「加古川パスタ」と相乗効果がある作物（オリーブ、にんにく、ワインブドウ）栽培が可能



今後の展開・課題

- **新規就農者の参入意欲を高め、農業自体の活性化に向けた課題**
 - **新規就農者のデータ利活用**

販路が様々であることから、ベテランの農家がノウハウを開示しない。
データを活用するためのノウハウを伝える場が必要。
 - **就農者にとって導入費用の負担が大きい**

新規就農者に対して、導入費を補助するなどの検討が必要。
- **今後の検討**
 - **就農者数の増加を目指し、新規就農者を定着するための体制構築の検討**
 - **相乗効果を期待したポテンシャルを活かした市内特産品等をPRするための取組の検討**

